

(様式第 10)

獨医大病庶庶発第 56 号
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 寺野

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒340-0042 埼玉県草加市学園町1番1号
氏 名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

獨協医科大学病院

3 所在の場所

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880 電話(0282)86-1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ ○無
内科と組み合わせた診療科名等 1心臓・血管内科 2消化器内科 3血液・腫瘍内科 4循環器・腎臓内科 5神経内科 6内分泌代謝内科 7呼吸器・アレルギー科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	○有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1心臓・血管外科 2形成外科・美容外科 3小児外科 4呼吸器外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○1精神科 ○2小児科 ○3整形外科 ○4脳神経外科 ○5皮膚科 ○6泌尿器科 ○7産婦人科 8産科 9婦人科 ○10眼科 11耳鼻咽喉科 ○12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ○15麻酔科 ○16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ ○無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1頭頸部・耳鼻咽喉科 2リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	0床	0床	0床	1,125床	1,167床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	543人	38人	548.3人	看護補助者	70人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	18人	2人	18.4人	理学療法士	15人	臨床検査技師	90人
薬 剤 師	64人	0人	64.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	41人	1人	41.3人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	931人	90人	999.5人	臨床工学技師	20人	医療社会事業従事者	13人
准看護師	2人	4人	5.2人	栄 養 士	11人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯科技工士	1人	事務職員	230人
管理栄養士	21人	0人	21.0人	診療放射線技師	66人	その他の職員	78人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	15人	眼科専門医	15人
外科専門医	15人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	2人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	9人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	2人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	9人
		合 計	136人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	981.9人	16.0人	997.9人
1日当たり平均外来患者数	2,027.5人	93.0人	2,120.6人
1日当たり平均調剤数			3,969.0剤
必要医師数			225人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			50人
必要(准)看護師数			570人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	200m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	10床	心電計	○有・無
			人工呼吸装置	○有・無	心細動除去装置	○有・無
			その他の救急装置	○有・無	ペースメーカー	○有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	376m ² 台	病床数	27床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	54m ²			
化学検査室	615m ²		(主な設備) 全自動生化学分析装置JCA-BM6070 # JCA-BM9130			
細菌検査室	41.63m ²		(主な設備) 全自動細菌検査分析装置マイクロシステムMT-6500			
病理検査室	266m ²		(主な設備) 自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスラット 顕微鏡写真撮影装置			
病理解剖室	80m ²		(主な設備) 感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置 高圧蒸気滅菌器			
研究室	21,154m ²		(主な設備) マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム 次世代シークエンサー-Ion Protonシステム			
講義室	288m ²		室数	1室	収容定員	238人
図書室	5,894m ²		室数	1室	蔵書数	250,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	57.8%	逆紹介率	34.4%
算出 根拠	A: 紹介患者の数	19,717人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,187人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	4,143人	
	D: 初診の患者の数	41,274人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	26人
RET遺伝子診断	1人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	12人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	21人
前眼部三次元画像解析	110人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	1人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	1人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
急性心筋梗塞に対するエボエチンペーパ投与療法	3人
ボルテゾミブ静脈内投与、メルフェラン経口投与及びデキサメタゾン経口投与の併用療法	8人
解離性大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術	10人
慢性心不全に対する和温療法	12人
自己口腔粘膜を用いた培養上皮細胞シートの移植術	5人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体肺移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 2人の近親者から左右いずれかの肺の一部(下葉)を摘出し、末期呼吸器不全症例に両肺を移植するもの。			
医療技術名		取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 20 channel 脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療。			
医療技術名	小皮切経大腰筋腰椎相体間固定術(XLIF)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 小皮切から神経モニタリングを行いながら、経大腰筋的に腰椎、椎体間固定術を行う低侵襲手術である。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 白血病、骨髄異形症候群に実施した。			
医療技術名	自家蛍光及び狭帯域光による気管支鏡検査	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 自家蛍光観察および狭帯域光観察による気管支鏡検査で、早期肺癌の発見と治療効果確認を行い、肺癌の診療の向上と気管支鏡的治療を行っている。			
医療技術名	局所麻酔下高周波ITナイフによる胸膜全層生検術	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 局所麻酔下胸腔鏡下に高周波ITナイフを用いて胸膜の全層を生検し悪性中皮腫などの診断を確定する。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待出来る。			
医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である。			
医療技術名	IVUSを用いた冠動脈形成術	取扱患者数	285人
当該医療技術の概要 現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了点決定に必須なモダリティである。特に我々の使用するパーチャルヒストロジーIVUSは冠動脈形成術後の予後予測に有用である。			
医療技術名	肺動脈バルーン拡張術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 慢性血栓塞栓性肺高血圧症は、一部の手術可能例以外は根本的な治療もなく、難治性疾患とされてきた。経皮的肺動脈バルーン拡張術は手術可能例以外にも有効な治療である。			
医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	149人
当該医療技術の概要 総胆管結石症に対して結石を除去するため行う内視鏡治療。			

医療技術名	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 肝臓癌に対して超音波ガイド下に穿刺し電氣的に焼灼、壊死に至らしめる治療。			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 活動期潰瘍性大腸炎やクローン病患者に対する顆粒球や白血球成分除去療法。			
医療技術名	クローン病患者に対するダブルバルーン小腸内視鏡	取扱患者数	66人
当該医療技術の概要 ダブルバルーン小腸内視鏡を用いてクローン病の診断や狭窄部治療、治療効果判定を行う。			
医療技術名	劇症肝炎に対する血液浄化療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 劇症肝炎患者に対して行う血漿交換や血液濾過透析療法。			
医療技術名	重症肺炎に対する動注療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 重症急性肺炎に対する集中治療としての動脈内薬物注入療法。			
医療技術名	埋込型除細動器移植術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 自動的に致死性心室性頻拍を感知し高頻度刺激やショックパルスを発生し除細動を行う装置を体内に埋め込むもの。			
医療技術名	血管内超音波検査	取扱患者数	241人
当該医療技術の概要 冠動脈の動脈硬化(石灰化、アテローム硬化、血栓の有無)などについて詳細な評価を行う。			
医療技術名	経皮的冠動脈血栓吸引術	取扱患者数	81人
当該医療技術の概要 冠動脈内の血栓に対して吸引カテーテル(レスキュー、スロンバスター、パークサージ)にて血栓を吸引除去するもの。			
医療技術名	血漿交換療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 劇症肝炎やギラン・バレー症候群における障害因子を除去するために体外循環を行い血漿を濾過置換する。			
医療技術名	血液吸着療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 膠原病において自己免疫性の障害因子を除去するために体外循環によるカラム吸着療法を行う。 その他、LDL吸着やエンドトキシン吸着などがある。			
医療技術名	心室再同期療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 冠静脈洞および右室にペースメーカーリードを挿入し、左右心室を同時に刺激するペースメーカー装置を体内に埋め込むもの。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 難治性うつ病や治療抵抗性統合失調症に対して筋弛緩薬によりけいれんを抑制した状態でサイトマトロンを用いて頭部にパルス波を通電し、治療を行う。年間の施行件数は延べ約600件である。			

医療技術名	植え込み型補助人工心臓	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 植え込み術。			
医療技術名	食道癌に対する胸腔鏡下食道切除	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 食道癌に対して完全鏡視下に食道およびリンパ節を切除し、再建も行う。体壁破壊の軽減により、患者の術後回復の促進が期待できる。			
医療技術名	食道癌に対するDCF併用化学放射線療法	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 食道癌に対して非常に効果の高いDocetaxel, Cisplatin, 5-fluorouracilの3剤併用化学療法に放射線療法を加えることにより、高い奏効率と根治率の獲得が期待できる。			
医療技術名	進行胃癌に対するDCS併用化学療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 進行胃癌に対して従来はあまり行われていなかった術前化学療法をDocetaxel, Cisplatin, S-1の3剤併用で行うことにより、患者の手術後生存率を延長することが期待できる。			
医療技術名	進行直腸癌における術前化学放射線療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 本来は肛門温存することが難しい下部直腸癌に対して術前に化学放射線療法を行うことによって、切除率を向上させるだけでなく、肛門温存の率も向上させることが期待される。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	108人	・膿疱性乾癬	20人
・多発性硬化症	77人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	88人	・原発性胆汁性肝硬変	27人
・全身性エリテマトーデス	284人	・重症急性膵炎	6人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	58人
・再生不良性貧血	35人	・混合性結合組織病	41人
・サルコイドーシス	131人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	46人	・特発性間質性肺炎	30人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	299人	・網膜色素変性症	36人
・特発性血小板減少性紫斑病	121人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	48人	・肺動脈性肺高血圧症	24人
・潰瘍性大腸炎	305人	・神経線維腫症	31人
・大動脈炎症候群	18人	・亜急性硬化性全脳炎	2人
・ビュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	27人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	24人
・脊髄小脳変性症	54人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	125人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	7人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	315人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	24人
・後縦靭帯骨化症	83人	・肥大型心筋症	8人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	39人	・ミトコンドリア病	5人
・ウェゲナー肉芽腫症	12人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	4人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	150人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	51人	・黄色靭帯骨化症	8人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	105人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携受入加算
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料3
・臨床研修病院入院診療加算	・特定集中治療室管理料
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・超急性期脳卒中加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医療管理料1
・診療録管理体制加算	・短期滞在手術基本料 I・II
・急性期看護補助体制加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算	・
・重症皮膚潰瘍管理加算	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 高度難聴指導管理料	・ 植込型心電図検査
・ 糖尿病合併症管理料	・ 時間内歩行試験
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 胎児心エコー法
・ がん患者指導管理料1	・ ヘッドアップルティルト試験
・ がん患者指導管理料2	・ 皮下連続式グルコース測定
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植)	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 神経学的検査
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 補聴器適合検査
・ 外来放射線照射診療料	・ ロービジョン検査判断料
・ ニコチン依存症管理料	・ コンタクトレンズ検査料1
・ 地域連携診療計画管理料	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ がん治療連携計画策定料	・ 内服・点滴誘発試験
・ がん治療連携管理料	・ センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・ 認知症専門診断管理料	・ 持続血糖測定器加算
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 1回線量増加加算
・ 薬剤管理指導料	・ 磁気による膀胱等刺激法
・ 医療機器安全管理料1	・ 画像診断管理加算1
・ 医療機器安全管理料2	・ 歯科画像診断管理加算
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 遠隔画像診断
・ 歯科治療総合医療管理料	・ ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ HPV核酸検出	・ 外来化学療法加算1
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 無菌製剤処理料
・ 検体検査管理加算Ⅰ・Ⅲ	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・ 検体検査管理加算(Ⅳ)	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 両心室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両心室
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・ がん患者リハビリテーション料	・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ 集団コミュニケーション療法料	・ 補助人工心臓
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 植込型補助人工心臓(拍動流型)
・ 医療保護入院等診療料	・ 植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・ エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ 経皮的動脈遮断術
・ エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・ ダメージコントロール手術
・ 透析液水質確保加算	・ 体外衝撃波胆石破碎術
・ 一酸化窒素吸入療法	・ 腹腔鏡下肝切除
・ 歯科技工加算	・ 生体部分肝移植術
・ 皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色種センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は非対称角膜炎に係るものに限る。))	・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・ 腹腔鏡下小切開副腎部分切除術・腹腔鏡下小切開腎摘出術・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・ 同種死体肺移植術	・ 同種死体腎移植術
・ 生体部分肺移植術	・ 生体腎移植術
・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・ 膀胱水圧拡張術
・ 経皮的冠動脈形成術	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 経皮的冠動脈ステント留置術	・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ 経皮的中隔心筋焼灼術	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・ 輸血管理料(Ⅱ)
・ 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・ 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・ 内視鏡手術用支援機器加算
・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	・ 歯周組織再生誘導手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・他焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	・
・前眼部三次元画像解析	・
・末梢血単核球移植による血管再生治療	・
・IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の評価	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・急性心筋梗塞に対するエボエチンベータ投与療法(急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに限る))	・
・慢性心不全に対する和温療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	平成25年度 : 2回
部 検 の 状 況	部検症例数 35例 / 部検率 4.40%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
RUNX1失活型白血病モデルマウスにおける骨髓微小環境の解析とニッチ因子の同定	中村 由香	内科学(血液・腫瘍)	1,200,000	補委 日本学術振興会
レム睡眠行動異常症におけるドパミン神経機能の経年変化	宮本 雅之	内科学(神経)	800,000	補委 日本学術振興会
母集団薬物動態解析による抗うつ薬の光学異性体血中濃度および薬力学予測法の確立	下田 和孝	精神神経医学	1,100,000	補委 日本学術振興会
L-セリン合成異常を伴う統合失調症を通じた病因の生物学的理解と疾患克服の試み	尾関 祐二	精神神経医学	1,500,000	補委 日本学術振興会
QT間隔異常を引き起こす因子を通じた統合失調症病態の理解と治療・予防への展開	藤井 久彌子	精神神経医学	1,200,000	補委 日本学術振興会
I型コラーゲン転写活性化因子(COLF2)の精製とcDNAクローニング	箆持 淳	皮膚科学	600,000	補委 日本学術振興会
高齢者社会における前立腺癌診療:MR技術による治療選択支援システムの構築と普及	楫 靖	放射線医学	600,000	補委 日本学術振興会
小児期の体重増加と肥満・代謝異常との関係を解明する探索的・系統的なコホート研究	有阪 治	小児科学	1,500,000	補委 日本学術振興会
小児白血病融合転写因子の白血病化と傍白血病症状を呈する下流遺伝子の同定	黒澤 秀光	小児科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
大腸癌化学療法の効果予測するDNA修復蛋白群発現に関する研究	山口 悟	第一外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
リアルタイム知的画像処理・拡張現実技術に基づく手術ナビゲーションシステムの構築	下田 貢	第二外科学	1,900,000	補委 日本学術振興会
動脈屈曲症候群ATS原因遺伝子GLUT10輸送基質同定からの疾患発症因子の解明	福田 宏嗣	心臓・血管外科学	900,000	補委 日本学術振興会
血管細胞における力学応答の分子バイオメカニクス	安藤 譲二	整形外科	14,000,000	補委 日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた下部尿路障害モデル再生の検討	山西 友典	泌尿器科学	1,500,000	補委 日本学術振興会
尿中バイオマーカーによる前立腺癌診断および再発再燃予測	深堀 能立	泌尿器科学	500,000	補委 日本学術振興会
気道リモデリングの嗅粘膜障害への関与—好酸球性副鼻腔炎の嗅粘膜分泌異常の解明—	春名 真一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	700,000	補委 日本学術振興会
全身麻酔薬が脊髄サブスタンスP放出とC-FOS発現に与える影響	高薄 敏史	麻酔科学	1,600,000	補委 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌発生母細胞の同定とその臨床的意義	川又 均	口腔外科学	1,200,000	補委 日本学術振興会
脂肪幹細胞を用いた再生組織付加prefabricated flapの基礎的研究	朝戸 裕貴	形成外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
分層採皮における新しい採皮法、採皮デバイスの研究開発	高田 悟朗	形成外科学	1,400,000	補委 日本学術振興会
遠隔虚血プレコンディショニングによる皮弁の生着範囲と血流動態に関する実験的研究	政岡 浩輔	形成外科学	700,000	補委 日本学術振興会
18FコリナーPETを中心とする複合的分子イメージングによる前立腺癌診断の検討	坂本 攝	PETセンター	600,000	補委 日本学術振興会
過活動膀胱、間質性膀胱炎に対する低反応レベルレーザー照射療法の有用性に関する検討	内山 智之	排泄機能センター	600,000	補委 日本学術振興会

小計 23件

癌抑制マイクロRNA - 145 が制御する前立腺癌における新規分子ネットワークの解明	布施 美樹	排泄機能センター	1,400,000	補委	日本学術振興会
石綿関連疾患の診断基準及び手法に関する調査研究	荒川 浩明	放射線医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
「痛み」に関する教育と情報提供システムの構築に関する研究	平田 幸一	内科学（神経）	代表者一括計上	補委	厚生労働省
NSAIDs過敏気道疾患の病因、発症機序解明とガイドライン作成に関する研究	春名 真一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,000,000	補委	厚生労働省
重症好酸球性副鼻腔炎の診断基準作成と治療法確立に関する研究	春名 真一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	400,000	補委	厚生労働省
デルマトン 4-O-硫酸基転移酵素-1 欠損に基づくエーラスダンロス症候群の病態解明と治療法の開発	旗持 淳	皮膚科学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
RSウイルス気道感染予防によるアトピー型気管支喘息の発症抑制効果に関する研究	吉原 重美	小児科学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
食道がん化学放射線療法後局所再発再発例に対するタラポルフィンナトリウム（レザフィリン）及び半導体レーザー（PDレーザー）を用いた光線力学療法の医師主導治験	中村 哲也	医療情報センター	500,000	補委	厚生労働省
性分化疾患の実態把握と病態解明ならびに標準的診断・治療指針の作成	有阪 治	小児科学	500,000	補委	厚生労働省
先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注射法の有効性・安全性に関する研究	有阪 治	小児科学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
治験の実施に関する研究[自家培養表皮]	朝戸 裕貴	形成外科学	1,000,000	補委	厚生労働省
HIV母子感染の疫学調査と予防対策および女性・小児感染者支援に関する研究	大島 教子	産科婦人科学	1,100,000	補委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	野原 裕	整形外科	500,000	補委	厚生労働省
NCDを用いた胸腔鏡による肺癌切除手術の実態調査	千田 雅之	呼吸器外科学	700,000	補委	厚生労働省
高速シークエンサーを用いた包括的臨床遺伝子検査システムの構築	石井 芳樹	内科学（呼吸器・アレルギー）	1,500,000	補委	厚生労働省
分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発	植木 敬介	腫瘍センター	1,000,000	補委	文部科学省

小計1.6件
合計3.9件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Taguchi I, Oda K, Yoneda S, Kageyama M, Kanaya T, Toyoda S, Abe S, Node K, Inoue T	心臓・血管内科	Evaluation of serial changes in tissue characteristics during statin-induced plaque regression using virtual histology-intravascular ultrasound studies	Am J Cardiol vol.111 1246-1252 2013/5
2	Taguchi I, Toyoda S, Takano K, Arikawa T, Kikuchi M, Ogawa M, Abe S, Node K, Inoue T	心臓・血管内科	Irbesartan, an angiotensin receptor blocker, exhibits metabolic, anti-inflammatory and antioxidative effects in patients with high-risk hypertension.	Hypertens Res vol.36 608-613 2013/7
3	Yoneda S, Abe S, Kanaya T, Oda K, Nishino S, Kageyama M, Taguchi I, Masawa N, Inoue T	心臓・血管内科	Late-phase inflammatory response as a feature of in-stent restenosis after drug-eluting stent implantation.	Coronary artery disease vol.24 no.5 368~373 2013/8
4	Amano H, Toyoda S, Arikawa T, Inami S, Otani N, Nishi Y, Kitagawa Y, Taguchi I, Abe S, Inoue T	心臓・血管内科	Left ventricular function in pulmonary hypertension.	Heart and vessels vol.28 no.4 505~509 2013/7
5	Taguchi I, Toyoda S, Arikawa T, Ogino Y, Koizumi S, Kikuchi M, Abe S, Node K, Inoue T	心臓・血管内科	Is direct renin inhibition superior to angiotensin receptor blockade in the effects beyond blood pressure lowering?	Japanese Journal of Clinical Physiology vol.43 no.2 89~95 2013/4
6	Koshiji N, Taguchi I, Kageyama M, Nasuno T, Inami S, Arikawa T, Toyoda S, Kikuchi M, Abe S, Node K, Inoue T	心臓・血管内科	Hypouricemic effects of angiotensin receptor blockers in high risk hypertension patients	Japanese Journal of Clinical Physiology vol.43 no.4/6 151~157 2013/11
7	Koizumi S, Taguchi I, Kageyama M, Nasuno T, Inami S, Arikawa T, Toyoda S, Kikuchi M, Abe S, Inoue T	心臓・血管内科	Effects of the oral adsorbent AST-120, on oxidative stress and uremic toxins in high risk chronic kidney disease patients	Japanese Journal of Clinical Physiology vol.43 no.4/6 159~166 2013/11

8	Tokura M, Taguchi I, Kageyama M, Nasuno T, Nishiyama Y, Koshiji N, Koizumi S, Uehara D, Ogino Y, Toyoda S, Abe S, Inoue T	心臓・血管内科	Clinical features of spontaneous coronary artery dissection	J Cardiol vol.63 119-122 2014/2
9	Kitagawa Y, Abe S, Toyoda S, Watanabe S, Ebisawa K, Murakami Y, Takahashi T, Sugimura H, Taguchi I, Inoue T	心臓・血管内科	Gender differences in the ratio of eicosapentaenoic acid to arachidonic acid in an inland prefecture, Tochigi: Tochigi Ryomo EPA/AA trial in coronary artery disease (TREAT-CAD)	Intern Med vol.53 177-182 2014/3
10	Taguchi I, Yoneda S, Abe S, Toyoda S, Nasuno T, Nishino S, Kageyama M, Tokura M, Ogawa M, Node K, Inoue T	心臓・血管内科	The late phase inflammatory response after drug-eluting stent implantation	Heart Vessels vol.29 213-219 2014/3
11	Taguchi I, Kageyama M, Kanaya T, Abe S, Node K, Inoue T	心臓・血管内科	Clinical significance of non-slip element balloon angioplasty for patients of coronary artery disease: a preliminary report.	J Cardiol vol.63 19-23 2014/1
12	Keiichi Tominaga, Masakazu Nakano, Mina Hoshino, Hideyuki Hiraishi	消化器内科	Large-scale disaster and gastrointestinal disease	Clin J Gastroenterol vol.6 99~104 2013/4
13	Tominaga K, Nakano M, Hoshino M, Kanke K, Hiraishi H	消化器内科	Efficacy, safety and cost analyses in ulcerative colitis patients undergoing granulocyte and monocyte adsorption or receiving prednisolone. .	BMC Gastroenterol vol.13 41 2013/5
14	Mitsunori Maeda, Hideyuki Hiraishi	消化器内科	Efficacy of video capsule endoscopy with flexible spectral imaging color enhancement at setting 3 for differential diagnosis of red spots in the small bowel	Digestive Endoscopy vol.26 228~231 2014/3
15	Ishimitsu T, Ohta S, Ohno E, Takahashi T, Numabe A, Okamura A, Ohba S, Hashimoto A, Matsuoka H	循環器・腎臓内科	Long-term antihypertensive effects of aliskiren, a direct renin inhibitor, in chronic hemodialysis patients	Ther Apher Dial vol.17 no.5 524~531 2013/10
16	Yano H, Horinaka S, Yagi H, Ishimitsu T	循環器・腎臓内科	Comparison of inflammatory response after implantation of sirolimus- and paclitaxel-eluting stents in patients on hemodialysis	Heart Vessels vol.28 no.3 308~315 2013/5

17	Sugiyama F, Kobayashi N, Ishikawa M, Onoda S, Ishimitsu T	循環器・腎臓内科	Renoprotective mechanisms of telmisartan on renal injury and inflammation in SHRSP.Z-Leprfa/lzmDmcr rats	Clin Exp Nephrol vol.17 no.4 515~524 2013/8
18	Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Hirata K	神経内科	Restless "lower back" in a patient with Parkinson's disease	Tremor Other Hyperkinet Mov (N Y) 2013/10
19	Suzuki K, Suzuki S, Miyamoto M, Miyamoto T, Numao A, Watanabe Y, Takashima R, Hirata K	神経内科	Does pramipexole treatment improve headache in patients with concomitant migraine and restless legs syndrome?	Tremor Other Hyperkinet Mov (N Y) 2013/9
20	Kokubun N, Shahrizaila NKoga MHirata KYuki N	神経内科	The demyelination neurophysiological criteria can be misleading in Campylobacter jejuni-related Guillain-Barre syndrome	Clin Neurophysiol vol.124 no.8 1671~1679 2013/8
21	Kokubun N, Sada T, Yuki N, Okabe M, Hirata K	神経内科	Optimization of intravenous immunoglobulin in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy evaluated by grip strength measurement	Eur Neurol vol.70(1-2) 65-69 2013/6
22	Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Suzuki S, Watanabe Y, Numao A, Iwanami M, Tatsumoto M, Sada T, Kadowaki T, Hashimoto K, Sakuta H, Hirata K	神経内科	Snoring is associated with an impaired motor function, disease severity and the quality of life but not with excessive daytime sleepiness in patients with Parkinson's disease	Intern Med vol.52(8) 863-869 2013/4
23	Takekawa H, Suzuki K, Takada E, Tanaka H, Okabe R, Yamamoto M, Ishii Y, Okamura M, Hirata K	神経内科	Acceleration time ratio for the assessment of extracranial internal carotid artery stenosis	J Med Ultrasonics vol.41 no.1 63~67 2014/1
24	Numao A, Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Hirata K	神経内科	Clinical correlates of serum insulin-like growth factor-1 in patients with Parkinson's disease, multiple system atrophy and progressive supranuclear palsy	Parkinsonism Relat Disord vol.20 no.2 212~216 2014/2

25	Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Suzuki S, Watanabe Y, Takashima R, Hirata K	神経内科	Dream-enacting behaviour is associated with impaired sleep and severe headache-related disability in migraine patients	Cephalalgia vol.33(10) 868-878 2013/7
26	Komagamine T, Matsuno K, Sakumoto Y, Takahashi H, Kokubun N, Yuki N, Hirata K	神経内科	Immunohistochemical localization of the GM1, GD1a, GD1b and GQ1b gangliosides in the neuronal endings of rat muscle spindles	Arch Histol Cytol 2013 in press
27	Takano M, Watanabe Y, Hoshino Y, Izawa N, Kawakami T, Tanaka H, Hirata K	神経内科	Effects of memantine on event related potentials in Alzheimer's disease under donepezil treatment	Neurosci Biomed Engineer vol.1(1) 34-39 2013
28	Aso Y, Terasawa T, Kato K, Jojima T, Suzuki K, Iijima T, Kawagoe Y, Mikami S, Kubota Y, Inukai T, Kasai K.	内分泌代謝内科	The serum level of soluble CD26/dipeptidyl peptidase 4 increases in response to acute hyperglycemia after an oral glucose load in healthy subjects: association with high-molecular weight adiponectin and hepatic enzymes.	Transl Res. Vol.162 no. 2 309~316 2013/11
29	Suzuki K, Sakuta A, Aoki C, Aso Y.	内分泌代謝内科	Hyperparathyroidism caused by a functional parathyroid cyst.	BMJ Case Rep. Vol.21 2013/5
30	Hayashi Y, Hirata H, Watanabe M, Yoshida N, Yokoyama T, Murayama Y, Sugiyama K, Arima M, Fukushima Y, Fukuda T, Ishii Y	呼吸器・アレルギー内科	Epidemiologic investigation of hornet and paper wasp stings in forest workers and electrical facility field workers in Japan	Allergology Internationa vol.63 no.1 21~26 2014/3
31	Obara K, Sugiyama K, Hirata H, Kikkawa Y, Sakio H, Arima M, Fukushima Y, Fukuda	呼吸器・アレルギー内科	Monoclonal antibody against IL-5 receptor alpha, but not IL-5, inhibits airway hyperresponsiveness associated with airway remodeling	Int Med J vol.20 no.5 579~583 2013/10
32	Hirata H, Arima M, Fukushima Y, Sugiyama K, Tokuhisa T, Fukuda T	呼吸器・アレルギー内科	Leukotriene C4 aggravates bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice	Respirology vol.18 no.4 674~681 2013/5
33	Maezawa R, Kurasawa K, Arai S, Okada H, Owada T, Fukuda T	呼吸器・アレルギー内科	Positivity for anti-RNP antibody is a risk factor for adverse effects caused by trimethoprim-sulfamethoxazole, a prophylactic agent for P. jiroveci pneumonia, in patients with connective tissue diseases	Mod Rheumatol vol.23 no.1 62~70 2013/7

34	Hayashi Y, Hirata H, Watanabe M, Yoshida N, Yokoyama T, Kakuta T, Murayama Y, Sugiyama K, Arima M, Fukushima Y, Fukuda T, Ishii Y	呼吸器-アレルギー内科	Usefulness of specific-IgG4 to Hymenoptera venom in natural history of Hymenoptera stings, Journal of Investigational	J Invest Allerg Clin vol.24 no.3 192~211 2014
35	Hayashi S, Utani A, Iwanaga A, Yagi Y, Morisaki H, Morisaki T, Hamasaki Y, Hatamochi A	皮膚科	Co-existence of mutations in the FBN1 gene and the ABCC6 gene in a patient with Marfan syndrome associated with pseudoxanthoma elasticum	J Dermatol Sci vol.72(3) 325~327 2013/12
36	Yoshihara S, Kusuda S, Mochizuki H, Okada K, Nishima S, Eric A.F. Simoes	小児科	Effect of palivisumab prophylaxis on subsequent recurrent wheezing in preterm infants	Pediatrics vol.132 811~818 2013/11
37	Koyama S, Ichikawa G, Kojima M, Shimura N, Sairenchi T, Arisaka O	小児科	Adiposity rebound and the development of metabolic syndrome	Pediatrics vol.133 e114~119 2014/1
38	Imataka G, Suzumura H, Arisaka O	小児科	Diagnosis of sex chromosomal abnormalities in neonatal intensive care units	Genetic Counseling vol.24, 399~403 2013
39	Miyamoto K, Tsuboi T, Kokubu A, Suzumura H, Arisaka O.	小児科	Assessment of contractility and myocardial function in small and appropriate for gestational age premature neonates using the stress-velocity relationship and tissue Doppler imaging immediately after birth	J Pediatr Endocrinol Metab vol.26 999~1003 2013
40	Yamaguchi T, Ichikawa K, Sano Y, Sano W, Ikumoto T, Iwatate M, Tomita S, Kato H, Fujimori T	第一外科	Gastrointestinal: Sessile serrated adenoma/polyps with a minute T1 colorectal carcinoma	J Gastroenterol Hepatol vol.29 no.1 1 2014/1
41	Yamaguchi T, Fujimori T, Tomita S, Ichikawa K, Mitomi H, Ohno K, Shida Y, Kato H	第一外科	Clinical validation of the gastrointestinal NET grading system: Ki67 index criteria of the WHO 2010 classification is appropriate to predict metastasis or recurrence	Diagn Pathol vol.8 no.65 2013/4

42	Okamoto K, Fujimori T, Yamaguchi T, Ichikawa K, Tomita S, Sugai T, Imura J, Ohkura Y, Yao T, Fujii S, Kusaka T, Sekikawa A, Fukui H, Chiba T, Kato H, Mitomi H.	第一外科	Overexpression of regenerating gene alpha appears to reflect aberration of crypt cell compartmentalization in sessile serrated adenoma/polyps of the colon	Diagnostic Pathology vol.8 no.1 187 2013/11
43	Takahashi M, Nakajima MOgata HDomeki YOhtsuka KHara KKurayama EYamaguchi SSasaki KMiyachi KKato H	第一外科	CD24 expression is associated with progression of gastric cancer	Hepatogastroenterology vol.60 no. 124 653~658 2013/6
44	Yamaguchi S, Tsutsumi S, Fujii T, Morita H, Suto T, Nakajima M, Kato H, Asao T, Kuwano H	第一外科	Prophylactic and informational abdominal drainage is not necessary after colectomy and suprapromontory anastomosis	Int Surg vol.98 no.4 307~310 2013/10
45	Kurokawa R, Kim PKawamoto TMatsuda HHayashi SYamazaki SHatamochi AMori SShimoda MKubota K	第二外科	Intramedullary and retroperitoneal melanocytic tumor associated with congenital blue nevus and nevus flammeus: an uncommon combination of neurocutaneous melanosis and phacomatosis pigmentovascularis-case report	Neurol Med Chir (Tokyo) vol.53 no.10 730~734 2013/10
46	Shimoda M, Kubota KKatoh MKita J	第二外科	Effect of billroth II or Roux-en-Y reconstruction for the gastrojejunostomy on delayed gastric emptying after pancreaticoduodenectomy: a randomized controlled study	Ann Surg vol.257 no.5 938~942 2013/5
47	Iwasaki Y, Ishizuka MKato MKita JShimoda MKubota K	第二外科	Usefulness of an inflammation-based prognostic score (mGPS) for predicting survival in patients with unresectable malignant biliary obstruction	World J Surg vol.37 no.9 2013/9
48	Ishizuka M, Kubota KKita JShimoda MKato MSawada T	第二外科	Survival after surgery for hepatocellular carcinoma in relation to presence or absence of viral infection	Am J Surg vol.206 no.2 187~193 2013/8
49	Mori S, Kita J, Shimizu T, Kato M, Shimoda M, Kubota K.	第二外科	Outcome of hepatectomy for hepatocellular carcinoma in elderly patients with portal hypertension.	Int Surg vol.99(2) 153-160 2014/3

50	Iso Y, Kita J, Kato M, Shimoda M, Kubota K	第二外科	When hepatic-side ductal margin is positive in N+ cases, additional resection of the bile duct is not necessary to render the negative hepatic-side ductal margin during surgery for extrahepatic distal bile duct carcinoma.	Med Sci Monit vol.20 471-475 2014/3
51	Kubota K, Nakanuma Y, Kondo F, Hachiya H, Miyazaki M, Nagino M, Yamamoto M, Isayama H, Tabata M, Kinoshita H, Kamisawa T, Inui K	第二外科	Clinicopathological features and prognosis of mucin-producing bile duct tumor and mucinous cystic tumor of the liver: a multi-institutional study by the Japan Biliary Association.	J Hepatobiliary Pancreat Sci vol.3 176-185 2014/3
52	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Iwasaki Y, Kubota K	第二外科	Combination of platelet count and neutrophil to lymphocyte ratio is a useful predictor of postoperative survival in patients with colorectal cancer	Br J Cancer vol.109(2) 401-407 2013/7
53	Hachiya H, Miura Y, Inoue K, Park KH, Takeuchi M, Kubota K	第二外科	Advanced glycation end products impair glucose-induced insulin secretion from rat pancreatic β -cells	J Hepatobiliary Pancreat Sci vol.21(2) 134-141 2014/2
54	Iso Y, Kubota K	第二外科	Intragastric stapled pancreatic pseudocystgastrostomy under endoscopic guidance	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech vol.23(3) 330-333 2013/6
55	Chida M, Hayama M, Kobayashi S, Ishihama H, Oyaizu T, Minowa M, Matsumura Y	呼吸器外科	Benefits of Rib Head Resection via Costotransverse Ligament Release Method for T3 Lung Cancer in the Paravertebral Space	Ann Thorac Cardiovasc Surg vol.19 no.4 268~272 2013/8
56	Hayama M, Chida M, Karube Y, Tamura M, Kobayashi S, Oyaizu T, Honma K	呼吸器外科	One-step nucleic acid amplification for detection of lymph node metastasis in lung cancer	Ann Thorac Cardiovasc Surg vol.20 no.3 181~184 2014/3
57	Kuboki A, Nakayama T, Konno W, Goto K, Nakajima I, Kanaya H, Hirabayashi H, Haruna S	耳鼻咽喉・頭頸部外科	New technique using an energy-based device versus conventional technique in open thyroidectomy.	Auris Nasus Larynx vol.40 no.6 558~562 2013/12

58	Shinji Y, Ryu K, Phyo K	脳神経外科	Cilostazol, aselective type III phosphodiesterase inhibitor: prevention of cervical myelopathy in a rat chronic compression model	J Neurosurg Spine vol.20 93~101 2014/1
59	Yamanishi T, Homma Y, Nishizawa O, Yasuda K, Yokoyama O, and the SMN-X Study Group	泌尿器科	Multicenter, randomized, sham-controlled study on the efficacy of magnetic stimulation for women with urgency urinary incontinence.	Int J Urol Int J Urol vol.14 no.1 2013/10
60	Yuki H, Kamai T, Kubota K, Abe H, Nishihara D, Mizuno T, Masuda A, Betsunoh H, Yashi M, Fukabori Y, Yoshida K	泌尿器科	Axitinib for preoperative downstaging of renal cell carcinoma with sarcomatoid differentiation and direct invasion of the duodenum and inferior vena cava: a case report.	Onco Targets Ther vol.7 289-295 2014/2
61	Yashi M, Nishihara D, Mizuno T, Yuki H, Masuda A, Kambara T, Betsunoh H, Abe H, Fukabori Y, Muraishi O, Kamai T.	泌尿器科	Metronomic Oral Cyclophosphamide Chemotherapy Possibly Contributes to Stabilization of Disease in Patients With Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer: A Prospective Analysis of Consecutive Cases.	Clin Genitourin Cancer vol.14 40~48 2014/3
62	Abe H, Kamai T	泌尿器科	Recent advances in the treatment of metastatic renal cell carcinoma	Int J Urol vol.10 944-955 2013/10
63	Betsunoh H, Fukuda T, Anzai N, Nishihara D, Mizuno T, Yuki H, Masuda A, Yamaguchi Y, Abe H, Yashi M, Fukabori Y, Yoshida K, Kamai T	泌尿器科	Increased expression of system large amino acid transporter (LAT)-1 mRNA is associated with invasive potential and unfavorable prognosis of human clear cell renal cell carcinoma	BMC Cancer vol.13 509 2013/10
64	Yuki H, Fuse M, Masuda A, Betsunoh H, Abe H, Yashi M, Fukabori Y, Yamanishi T, Kamai T	泌尿器科	Urethral Arterial Bleeding from an Iatrogenic Pseudoaneurysm due to Catheterization	Med Surg Urol vol.2 122 2013/12
65	Yamanishi T, Fuse M, Yamaguchi C, Uchiyama T, Kamai T, Kurokawa S, Morita T	泌尿器科	Nocturia Quality-of-Life questionnaire is a useful tool to predict nocturia and a risk of falling in Japanese outpatients: A cross-sectional survey	Int J Uro vol.29 no.1 2013/8

66	Hasegawa K, Ishikawa KKawai STorii YKawamura KKato RTsukada KUdagawa Y	産科婦人科	Overcoming paclitaxel resistance in uterine endometrial cancer using a COX-2 inhibitor	Oncol Rep vol.30 no.6 2937~2944 2013/12
67	Takasusuki T, Yamaguchi S, Hamaguchi S, Yaksh TL	麻酔科	Effects of General Anesthetics on Substance P Release and c-Fos Expression in the Spinal Dorsal Horn	Anesthesiology vol.119 no.2 433~442 2013/8
68	Hamaguchi S, Nagao M, Takahashi Y, Ikeda T, Yamaguchi S	麻酔科	Low Dose Landiolol Combined with Catecholamine Can Decrease Heart Rate without Suppression of Cardiac Contraction after Cardiopulmonary Bypass.	Dokkyo J Med Sci vol.41 27~33 2014
69	Hishinuma A, Yoshida A, Suzuki H, Okuzumi K, Ishida T	臨床検査センター	Complete sequencing of an IncFII NDM-1 plasmid in Klebsiella pneumoniae shows structural features shared with other multidrug resistance plasmids	J Antimicrob Chemother vol.68 no.10 2415~2417 2013/10
70	Kogai T	臨床検査センター	Sodium iodide symporter in the fight against thyroid cancer	Future Oncol vol.9 no.11 1679~1682 2013/11
71	Kazuya Tamai, Miwa Akutsu, Yuichiro Yano	リウマチセンター	Primary frozen shoulder: Brief review of pathology and imaging abnormalities	J Orthop Sci vol.19 no.1 1~5 2014/1

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○有・無
・ 手順書の主な内容 ○申請書類について ○審査の流れについて ○承認後の責務について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年3回(その他は持回審査)

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年中業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
・ 規定の主な内容 ○利益相反の定義 ○利益相反管理の対象 ○利益相反管理委員会について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回(持回審査のみ)

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年中業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 ○臨床研究に関する倫理指針について ○本学生命倫理委員会について ○質疑応答	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年中業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修後は、レジデントとして後期研修に続きます。

当院の後期研修は、大学病院として各種学会認定施設を取得し、各領域別の専門分野での充実した研修と高度で良質な医療を提供できる専門医の育成を目標としています。

当院レジデントプログラムはこれらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした教育プログラムとして42の後期研修プログラムを備え、高度な研修を実施しています。

【専門研修コース一覧】

心臓・血管内科

- ・心臓・血管内科不整脈部門専門医コース
- ・心臓・血管内科心不全部門専門医コース
- ・心臓・血管内科虚血部門専門医コース

消化器内科

- ・消化器病学会専門医コース

血液・腫瘍内科

- ・日本血液学会専門医コース

循環器・腎臓内科

- ・循環器専門医育成コース
- ・腎臓・透析専門医育成コース

神経内科

- ・日本脳卒中学会専門医コース
- ・日本頭痛学会専門医コース
- ・日本神経学会専門医コース

内分泌代謝内科

- ・糖尿病専門医養成コース
- ・内分泌代謝科専門医養成コース

呼吸器・アレルギー内科

- ・呼吸器専門医コース
- ・腫瘍内科医（呼吸器系）専門医コース
- ・呼吸器内視鏡専門医コース
- ・リウマチ・膠原病内科専門医コース
- ・日本アレルギー学会専門医コース

精神神経科

- ・精神科指導医コース

皮膚科

- ・日本皮膚科学会専門医コース

放射線科

- ・放射線科専門医コース

小児科

- ・小児科専門医コース

第一外科

- ・日本外科学会専門医コース

第二外科

- ・消化器外科専門医コース
- ・肝胆膵高度技能医コース

心臓・血管外科

- ・心臓血管外科専門医取得コース

呼吸器外科

- ・呼吸器外科専門医取得コース

脳神経外科

- ・脳神経外科専門医取得コース

整形外科

- ・日本整形外科学会専門医取得コース
- ・日本脊椎脊髄病学会認定・脊椎脊髄外科指導医取得コース

泌尿器科

- ・泌尿器科専門医取得コース

眼科

- ・眼科専門医研修コース

耳鼻咽喉・頭頸部外科

- ・耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成コース

産科婦人科

- ・産科婦人科専門医（婦人科腫瘍）コース
- ・産科婦人科専門医（生殖医療）コース

麻酔部

- ・麻酔科専門医コース

救急医学

- ・救急・集中治療専門医コース

口腔外科

- ・口腔外科専門医取得コース

リハビリテーション科

- ・リハビリテーション科専門医コース

健康管理科

- ・消化器がん検診認定医コース

形成外科・美容外科

- ・形成外科専門医養成コース

臨床検査医学

- ・臨床検査専門医コース

病理部

- ・病理専門医コース

2 研修の実績

研修医の人数	78人(初期・研修歯科医1名含む)
--------	-------------------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者 () 内は院内標榜科名

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊田 茂	心臓・血管内科	臨床研修主任指導医	21年	
室久 俊光	消化器内科	臨床研修主任指導医	29年	
高橋 渉	血液・腫瘍内科	臨床研修主任指導医	15年	
堀中 繁夫	循環器・腎臓内科	臨床研修主任指導医	32年	
國分 則人	神経内科	臨床研修主任指導医	18年	
鈴木 國弘	内分泌代謝内科	臨床研修主任指導医	12年	
降旗 友恵	呼吸器・アレルギー科 (呼吸器・アレルギー内科)	臨床研修主任指導医	17年	
大曾根 彰	精神科 (精神神経科)	臨床研修主任指導医	29年	
嶋岡 弥生	皮膚科	臨床研修主任指導医	11年	
桑島 成子	放射線科	臨床研修主任指導医	30年	
吉原 重美	小児科	臨床研修主任指導医	31年	
佐々木 欣郎	外科 (第1外科)	臨床研修主任指導医	28年	
佐々木 欣郎	小児外科 (第1外科)	臨床研修主任指導医	28年	
高木 和俊	外科 (第2外科)	臨床研修主任指導医	24年	
栗田 俊之	心臓・血管外科	臨床研修主任指導医	15年	
小柳津 毅	呼吸器外科	臨床研修主任指導医	21年	
金 彪	脳神経外科	臨床研修主任指導医	34年	
竹内 大作	整形外科	臨床研修主任指導医	16年	
安土 正裕	泌尿器科	臨床研修主任指導医	23年	

千葉 桂三	眼科	臨床研修主任指導医	35年
中島 逸男	頭頸部・耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	臨床研修主任指導医	19年
久野 達也	産婦人科 (産科婦人科)	臨床研修主任指導医	12年
和久井 崇大	歯科口腔外科 (口腔外科)	臨床研修主任指導医	17年
鈴木 大雅	リハビリテーション科	臨床研修主任指導医	27年
梅川 浩平	形成外科・美容外科	臨床研修主任指導医	11年
池田 知史	麻酔科	臨床研修主任指導医	17年
松島 久雄	救急科 (救命救急センター)	臨床研修主任指導医	21年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容 1

1. 患者介助について～ドレーンの取り扱い～基礎・移動・体位変換・感染予防を中心に
2. 放射線の人体への影響について
3. 技術としてのコミュニケーションを振り返る

・研修の期間・実施回数 平成25年9月24日 17:15～18:15

・研修の参加人数 51名

・研修の主な内容 2

1. 救急撮影認定技師を目指して
2. 放射線防護の原則と線量限度
3. NIRS被ばく医療セミナーに参加して

・研修の期間・実施回数 平成25年11月26日 17:15～18:15

・研修の参加人数 53名

・研修の主な内容 3

1. 救急撮影認定技師を目指して
2. 放射線防護の原則と線量限度
3. NIRS被ばく医療セミナーに参加して

・研修の期間・実施回数 平成25年11月26日 17:15～18:15

・研修の参加人数 53名

・研修の主な内容 4

1. マルチモダリティ イメージングの検討(心臓)
2. 医療従事者が受ける被ばくについて

3. 緊急被ばく対応マニュアルの作成

・研修の期間・実施回数 平成26年1月28日 17:20～18:30

・研修の参加人数 52名

・研修の主な内容 5

1. マルチモダリティ イメージングの検討(心臓)
2. 教育企画WG活動報告～未来の放射線部～
3. 被ばく線量最適化に向けて
4. 福島県立医科大学放射線技師の第一原発事故への対応

・研修の期間・実施回数 平成26年3月25日 17:20～19:00

・研修の参加人数 34名

・研修の主な内容 6

私立医大臨床検査セミナー出張報告会

・研修の期間・実施回数 平成25年4月2日

・研修の参加人数 47名

・研修の主な内容 7

・肝炎ウイルス検査の最新情報

・研修の期間・実施回数 平成25年4月19日

・研修の参加人数 13名

・研修の主な内容 8

・第62回日本医学検査学会予演会

・研修の期間・実施回数 平成25年5月13日

・研修の参加人数 19名

・研修の主な内容 9

・第87回日本感染症学会学術講演会, 第61回日本化学療法学会総会合同学会予演会

・研修の期間・実施回数 平成25年6月3日

・研修の参加人数 12名

・研修の主な内容 10

・抗菌薬の薬物血中モニタリングについて

・研修の期間・実施回数 平成25年6月14日

・研修の参加人数 14名

・研修の主な内容 11

・CL-Jackを用いた免疫血清検査について

・研修の期間・実施回数 平成25年6月19日

・研修の参加人数 15名

・研修の主な内容 12

・生化学分析装置の機器比較説明会

・研修の期間・実施回数 平成25年6月20日

・研修の参加人数 29名

・研修の主な内容 13

・実習生研修報告, アボットPCRアキュジーンの紹介

・研修の期間・実施回数 平成25年7月1日

・研修の参加人数 28名

・研修の主な内容 14

・生化学免疫検査連結器ケンタウルスXPモジュラーシステム説明会

・研修の期間・実施回数 平成25年7月23日

・研修の参加人数 16名

・研修の主な内容 15

・次期凝固検査分析器CS5100説明会

・研修の期間・実施回数 平成25年8月7日

・研修の参加人数 19名

・ 研修の主な内容 16

・ 緊急輸血の宿日直トレーニング

・ 研修の期間・実施回数 平成25年9月27日～11月21日 17回

・ 研修の参加人数 57名

・ 研修の主な内容 17

・ 第50回関甲信支部医学検査学会予演会

・ 研修の期間・実施回数 平成25年10月3日

・ 研修の参加人数 14名

・ 研修の主な内容 18

・ 免疫抑制剤と臓器移植, シクロスポリンとタクロリムスの精密測定

・ 研修の期間・実施回数 平成25年10月4日

・ 研修の参加人数 15名

・ 研修の主な内容 19

・ 日本臨床検査自動化学会第45回大会予演会

・ 研修の期間・実施回数 平成25年10月8日

・ 研修の参加人数 22名

・ 研修の主な内容 20

・ 血算, 凝固検体並び替え装置TS-2000説明会

・ 研修の期間・実施回数 平成25年10月23日

・ 研修の参加人数 18名

・ 研修の主な内容 21

・ 第60回日本臨床検査医学会学術集会, 第34回栃木県医学検査学会予演会

・ 研修の期間・実施回数 平成25年10月29日

・ 研修の参加人数 25名

・ 研修の主な内容 22

・第31回私立医科大学臨床検査技師会学術研修会，第34回栃木県医学検査学会予演会

・研修の期間・実施回数 平成25年10月31日

・研修の参加人数 30名

・研修の主な内容 23

・国公立大学病院医療技術関係職員研修会出張報告会

・研修の期間・実施回数 平成25年11月5日

・研修の参加人数 31名

・研修の主な内容 24

・第25回日本臨床微生物学会予演会

・研修の期間・実施回数 平成26年1月27日

・研修の参加人数 11名

・研修の主な内容 25

・HCV患者の最新治療と臨床検査

・研修の期間・実施回数 平成26年3月3日

・研修の参加人数 12名

・研修の主な内容 26

・実習生研修報告

・研修の期間・実施回数 平成26年3月7日

・研修の参加人数 22名

・研修の主な内容 27

・新規採用医薬品について

・研修の期間・実施回数 10回

・研修の参加人数 30～40名／1回につき

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容 1

感染防止に関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～3月 7回

・研修の参加人数 326名

・研修の主な内容 2

NST（栄養サポートチーム）に関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～3月 9回

・研修の参加人数 526名

・研修の主な内容 3

スキンケアに関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～3月 9回

・研修の参加人数 360名

・研修の主な内容 4

医療安全に関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～3月 8回

・研修の参加人数 386名

・研修の主な内容 5

循環器領域の高度医療に対する看護

・研修の期間・実施回数 5月・1回

・研修の参加人数 375名

・研修の主な内容 6

看護部看護研究定例発表会

・研修の期間・実施回数 7月～11月・2回

・研修の参加人数 920名

・研修の主な内容 7

医療安全に関する研修

- ・研修の期間・実施回数 4月～11月 11回
- ・研修の参加人数 715名

・研修の主な内容 8

看護研究に関する研修

- ・研修の期間・実施回数 5月～1月 11回
- ・研修の参加人数 529名

・研修の主な内容 9

フィジカルアセスメントに関する研修

- ・研修の期間・実施回数 5月～11月 5回
- ・研修の参加人数 425名

・研修の主な内容 10

看護記録に関する研修

- ・研修の期間・実施回数 5月～7月 5回
- ・研修の参加人数 498名

・研修の主な内容 11

倫理に関する研修

- ・研修の期間・実施回数 7月～12月 5回
- ・研修の参加人数 363名

・研修の主な内容 12

ケースレポートに関する研修

- ・研修の期間・実施回数 6月～1月 3回
- ・研修の参加人数 229名

・研修の主な内容 13

リーダーシップに関する研修

- ・研修の期間・実施回数 6月～9月 3回
- ・研修の参加人数 346名
- ・研修の主な内容 14

プリセプターに関する研修

- ・研修の期間・実施回数 5月～11月 3回
- ・研修の参加人数 282名
- ・研修の主な内容 15

シミュレーションに関する研修

- ・研修の期間・実施回数 5月～6月 4回
- ・研修の参加人数 225名
- ・研修の主な内容 16

リフレッシュ研修

- ・研修の期間・実施回数 7月 1回
- ・研修の参加人数 101名
- ・研修の主な内容 17

癌看護に関する研修

- ・研修の期間・実施回数 6月～12月 5回
- ・研修の参加人数 239名
- ・研修の主な内容 18

救急看護に関する研修

- ・研修の期間・実施回数 6月～9月 5回
- ・研修の参加人数 284名
- ・研修の主な内容 19

感染看護に関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～8月 3回

・研修の参加人数 161名

・研修の主な内容 20

糖尿病看護に関する研修

・研修の期間・実施回数 6月～9月 3回

・研修の参加人数 185名

・研修の主な内容 21

皮膚・排泄看護に関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～12月 5回

・研修の参加人数 300名

・研修の主な内容 22

母性・新生児集中ケアに関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～11月 4回

・研修の参加人数 56名

・研修の主な内容 23

臨床実習指導に関する研修

・研修の期間・実施回数 4月～9月 4回

・研修の参加人数 197名

・研修の主な内容 24

新人指導計画に関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～9月 2回

・研修の参加人数 153名

・研修の主な内容 25

補助者に関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～9月 4回

・研修の参加人数 308名

・研修の主な内容 26

中途採用者に関する研修

・研修の期間・実施回数 5月～12月 4回

・研修の参加人数 51名

・研修の主な内容 27

口腔ケアリンクナース研修

・研修の期間・実施回数 5月～3月 7回

・研修の参加人数 277名

・研修の主な内容 28

インジェクショントレーナー養成研修

・研修の期間・実施回数 6月～9月 4回

・研修の参加人数 90名

・研修の主な内容 29

患者介助について（移動について・更衣について）

・研修の期間・実施回数 平成25年6月12日 17:30～19:00

・研修の参加人数 33名

・研修の主な内容 30

1. Gy, Sv の違いと測定について

2. 放射線物質の除染方法

・研修の期間・実施回数 平成25年7月25日 17:30～18:30

・研修の参加人数 40名

・研修の主な内容 31

パワーポイントの取り扱い方法について

・研修の期間・実施回数 平成25年8月30日 17:15～17:45

・研修の参加人数 58名

・研修の主な内容 32

平成25年度 国際医療福祉大学生実習終了発表会

・研修の期間・実施回数 平成25年12月5日

・研修の参加人数 39名

・研修の主な内容 33

1. カセットタイプDRを使用したポータブル撮影における使用経験
2. 緊急被ばく医療への対応
3. Aquilion ONE / Vision Editionを用いた頭部3D-CTA撮影条件の検討
4. 医療被ばく低減施設認定に向けた活動報告

・研修の期間・実施回数 平成26年3月5日 17:30～

・研修の参加人数 34名

・研修の主な内容 34

・全体集会, 私立医大臨床検査セミナー出張報告会

・研修の期間・実施回数 平成25年4月2日

・研修の参加人数 47名

・研修の主な内容 35

・宿日直輸血検査連絡事項11

・研修の期間・実施回数 平成25年4月18日

・研修の参加人数 40名

・研修の主な内容 36

・宿日直輸血検査連絡事項12, 病院機能評価対策, 機器更新の進捗状況

・研修の期間・実施回数 平成25年8月6日

・研修の参加人数 43名

・研修の主な内容 37

・宿日直輸血検査連絡事項13, 新規契約機器設置のスケジュール

・研修の期間・実施回数 平成25年8月29日

・研修の参加人数 40名

・研修の主な内容 38

・緊急輸血時の対応, 最終決定版マニュアル説明会

・研修の期間・実施回数 平成25年9月30日

・研修の参加人数 39名

・研修の主な内容 39

・新規導入機器のトレーニング説明会

・研修の期間・実施回数 平成25年11月5日

・研修の参加人数 31名

・研修の主な内容 40

・尿定性分析装置US-3100R Plus説明会と検査運用

・研修の期間・実施回数 平成25年11月27日

・研修の参加人数 19名

・研修の主な内容 41

・第2次機器システム導入打ち合わせ会

・研修の期間・実施回数 平成25年12月12日

・研修の参加人数 29名

・研修の主な内容 42

・感染対策, 汚染物の処理方法の実践講習

・研修の期間・実施回数 平成26年2月27日, 3月10日 2回

・研修の参加人数 36名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	○2. 現状
管理責任者氏名	病院長 平石秀幸	
管理担当者氏名	庶務課 高橋 三千男 診療記録管理部 野中 敏 総合医療連携室 麻生 保 経理課 篠原 尚 薬剤部 越川 千秋	医事保険課 飯塚 一幸 医療安全推進センター 金子 一 感染制御センター 白川 幸央 臨床研修センター 中田 幹雄

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 医事保険課 診療記録管理部 薬剤部 手術部	診療録は、1患者1ID制で診療記録管理部が1元管理しており、電子カルテについては、真正性・見読性・保存性の確保に基づき、医療情報委員会が運用・管理している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としており、やむを得ず、院外に持ち出す場合には、匿名化されている情報については所属長、匿名化されていない情報は所定の申請書により所属長及び病院長の許可を得ることになっている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事保険課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課 臨床研修センター	
	閲覧実績	庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	総合医療連携室 医事保険課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進センター	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進センター	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進センター	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進センター	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター	

	第九條の二十第一項	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 平石 秀幸
閲覧担当者氏名	事務部次長兼庶務課長 高橋 三千男
閲覧の求めに応じる場所	事務部
閲覧の手続の概要 ① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出。 ② ①により、病院長までの上申。 ③ ②により、本人確認（身分証明書等の提示）の後に情報開示。	

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：①安全管理に関する基本的な考え方</p> <p>②医療安全管理委員会・その他の組織に関すること</p> <p>③医療に係る安全管理のための職員研修に関すること</p> <p>④事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関すること</p> <p>⑤医療事故発生時の対応に関すること</p> <p>⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関すること</p> <p>⑦患者からの相談への対応に関すること</p> <p>⑧その他医療安全の推進のために必要なこと</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：①医療安全対策の検討及び研究に関すること</p> <p>②医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること</p> <p>③医療安全対策のための職員に対する指示に関すること</p> <p>④医療安全対策のために行う提言に関すること</p> <p>⑤医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること</p> <p>⑥安全パトロール</p> <p>⑦その他医療安全対策に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①平成 2 5 年 4 月 1 日（月）午後 2 時 4 5 分から 3 時 4 5 分 （対象者：平成 2 5 年度新入教職員・・・医療従事者等）</p> <p>②平成 2 5 年 4 月 2 日（火）午後 2 時 2 0 分から 3 時 2 0 分 （対象者：平成 2 5 年度新入看護師）</p> <p>③平成 2 5 年 4 月 3 日（水）午後 4 時 0 0 分から 5 時 0 0 分 （対象者：平成 2 5 年度新臨床研修医）</p>	

④平成25年4月11日(木)午後0時から午後0時40分

(対象者：平成25年度大学院生)

形態：講習会

講師：①医療安全推進センター 安全管理者 渡辺いつ子

②医療安全推進センター 課長 五月女 弘実

③医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人

演題：①「当院での医療安全の取り組みについて」

②「当院における個人情報保護について」

③「医療安全講習会 臨床研修医」

内容：「当院の医療安全体制」並びに「当院の個人情報保護」について解説がなされた。

参加者：①168名

②209名

③ 41名

○第1回 開催日：平成25年4月26日(金)

午後5時から午後6時

形態：講習会

講師：①医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人 先生

②アトムメディカル株式会社

演題：①「医療安全と聞く力」

②「ジャクソンリースの操作方法について」

内容：「マインドマップを用いた医療安全と患者対応の仕方」、「ジャクソンリース蘇生回路、フェースマスクの使用方法」について解説がなされた。

参加者：一般教職員752名

○第2回 開催日：平成25年5月15日(水)

午後5時から午後6時

形態：実技講習会

講師：看護部 手術部 主任 小森 富美子 氏

演題：「心肺蘇生の方法とAEDの取り扱いについて」

内 容：心肺蘇生、AED の使用方法について実技を通じて解説がなされた。

参加者：726名

○第3回 開催日：平成25年5月31日（金）

午後4時30分から6時

形 態：講習会

講 師：上智大学法学部・法科大学院 教授 岩田 太 先生

演 題：「医療事故をめぐる倫理と法

刑事医療過誤とオープンディスクロージャー(率直な説明と謝罪)」

内 容：医療ミスと法、行政、裁判の関わりについて解説がなされた。

参加者：352名

○第4回 開催日：平成25年6月10日（月）

午後5時20分から午後7時

形 態：講習会

講 師：①—緊急被ばく医療 WC— 放射線部 今野 智司 氏

—被ばく低減施設認定 WC—放射線部 福住 徹 氏

②放射線医学講座 准教授 桑島 成子 先生

演 題：①「放射線部ワーキンググループ紹介」

②「日常診療における医療放射線防護の実践」

内 容：緊急被ばく医療への対応、放射線医療の状況、小児被ばく、CT検査について解説がなされた。

参加者：404名

○第5回 開催日：平成25年6月18日（火）

午後5時から午後6時

形 態：講習会

講 師：東京海上日動メディカルサービス株式会社 恩田 清美 先生

演 題：「医療現場における個人情報の取り扱いについて」

内 容：個人情報保護法、個人情報の取り扱いについて解説がなされた。

参加者：458名

○第6回 開催日：平成25年7月12日（金）

午後5時から午後6時

形態：講習会

講師：山口大学 時間学研究所 教授 明石 真 先生

演題：「概日時計と健康」

内容：概日時計の概要、概日時計の修正により疾患予防について解説がなされた。

参加者：272名

○第7回 開催日：平成25年8月2日（金）

午後5時から6時

形態：講習会

講師：亀田総合病院 薬剤部長 佐々木 忠徳 先生

演題：「化学療法を安全に実施するために」

内容：抗がん薬曝露についての解説がなされた。

参加者：259名

○第8回 開催日：平成25年9月20日（金）

午後5時から午後6時

形態：実技講習会

講師：看護部 手術部 主任 小森 富美子 氏

演題：「心肺蘇生の方法とAEDの取り扱いについて」

内容：心肺蘇生、AEDの使用方法について、実技を通じて解説がなされた。

参加者：277名

○第9回 開催日：①平成25年10月8日（火）午後5時から午後6時

②平成25年10月9日（水）午後5時から午後6時

形態：実技講習会

講師：救命医学 学内准教授 松島 久雄 先生

演題：「院内パドル式除細動器の安全使用について」

内容：院内パドル式除細動器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：① 35名

② 38名

○第10回 開催日：平成25年11月7日（木）

午後5時15分～6時15分

形態：講習会

講師：虎の門病院 輸血部 部長 牧野 茂義 先生

演題：「本邦における輸血医療の現状及び

輸血時のインフォームド・コンセントについて」

内容：血液製剤の分類とインフォームド・コンセントについて、解説がなされた。

参加者：178名

○第11回 開催日：平成26年1月30日（木）

午後5時～6時

形態：講習会

講師：①輸血部 篠原 茂 氏

②血液・腫瘍内科 高橋 渉 先生

③看護部 新館8階病棟 神部 智子 氏

演題：「院内の輸血関連インシデント事例について」

①輸血関連インシデント件数について

検査事例「Rh陰性時の緊急輸血について」

②医師事例「超緊急輸血について」

③看護師事例「輸血時の血液型及びクロス採血について」

内容：輸血関連の年間インシデント報告件数と事例について解説がなされた。

参加者：265名

○第12回 開催日：平成26年2月19日（水）

午後5時～6時

形態：講習会

講師：麻酔科学教授 山口 重樹 先生

演題：「医療用麻薬の適正使用について」

内 容：麻薬鎮痛薬の適正な使用について解説がなされた。

参加者：172名

○第13回 開催日：平成26年3月19日（水）

午後4時30分～6時30分

形 態：講習会

講 師：リスクマネジャー委員会委員

演 題：「平成25年度リスクマネジャー小委員会における活動内容報告会」

内 容：各リスクマネジャー小委員会の年間活動内容及び検証結果について
発表した。

参加者：208名 計416名

※2日間で行う予定でしたが、1日で執り行いました。2回受講になります。

○ビデオ視聴会

形 態：医療安全推進課管理ビデオ視聴会

視聴者数：665名

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

不適切な湯温での熱傷

生後1ヶ月 表皮水疱症患児 通常、沐浴槽で沐浴を実施するが感染防止のために、サニタブを用いた。湯を準備し、沐浴を開始したところ児は激しく啼泣。他の看護師が気づき、不適切な湯温であると沐浴を中止した。下半身の発赤を認め、皮膚科医師の診察を受け処置を行なった。母親に主治医、看護師長から説明と謝罪した。

報告を受けて関係者、安全管理者参加でRCA分析を実施した。

原因は、①処置前のマニュアル確認作業が標準化されていなかった

②湯温の確認を水温計で確認しなかった 手袋を用いて準備しており肘で湯温を確認することが徹底されていなかった

③初めての処置はケアの内容を確認する習慣がなかった

改善策は①水温計を沐浴槽1機づつ設置

②水温計をベビーバス、サニタブに標準設置

③部署の「清潔」マニュアルに湯の温度の記載と水温計で計測を追加と周知をした

日本医療評価機構より「足浴やシャワー浴時の熱傷」報告があった。

それらの内容から、医療安全推進センターとして、医療安全緊急速報を作成して、院内に通知文書として回覧をした。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	○有(1名)・無
-------------------------	----------

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有(1名)・無
----------------------	----------

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	○有・無
-----------------------	------

- ・ 所属職員: 専任(6)名 兼任(3)名
- ・ 活動の主な内容:

①インシデント・アクシデント情報の収集・分析と改善案の立案に関すること

②医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること

③事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと

④患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと

⑤事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと

⑥医療安全に係る連絡調整に関すること

⑦その他医療安全の推進に関すること

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

○有・無

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○有・無																								
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>制定日：平成 19年10月 1日 改訂日：平成 24年 1月18日</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染防止対策に関する基本的な考え方・ 院内感染防止対策委員会・その他の組織に関する基本事項・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針・ 感染事例報告などの医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針・ 施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針・ 患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ 患者からの相談への対応に関する基本方針・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針																									
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回																								
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 院内ラウンドの報告2) 病原体の検出報告 (MRSA、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌等)3) 感染症治療薬使用状況 (毎月の抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬)4) 感染症発生報告5) その他 <p>・ 開催状況：</p> <table><tr><td>第1回</td><td>平成25年4月30日</td><td>第7回</td><td>平成25年10月29日</td></tr><tr><td>第2回</td><td>平成25年5月28日</td><td>第8回</td><td>平成25年11月26日</td></tr><tr><td>第3回</td><td>平成25年6月25日</td><td>第9回</td><td>平成25年12月24日</td></tr><tr><td>第4回</td><td>平成25年7月23日</td><td>第10回</td><td>平成26年 1月28日</td></tr><tr><td>第5回</td><td>平成25年8月20日</td><td>第11回</td><td>平成26年 2月25日</td></tr><tr><td>第6回</td><td>平成25年9月24日</td><td>第12回</td><td>平成26年 3月25日</td></tr></table>		第1回	平成25年4月30日	第7回	平成25年10月29日	第2回	平成25年5月28日	第8回	平成25年11月26日	第3回	平成25年6月25日	第9回	平成25年12月24日	第4回	平成25年7月23日	第10回	平成26年 1月28日	第5回	平成25年8月20日	第11回	平成26年 2月25日	第6回	平成25年9月24日	第12回	平成26年 3月25日
第1回	平成25年4月30日	第7回	平成25年10月29日																						
第2回	平成25年5月28日	第8回	平成25年11月26日																						
第3回	平成25年6月25日	第9回	平成25年12月24日																						
第4回	平成25年7月23日	第10回	平成26年 1月28日																						
第5回	平成25年8月20日	第11回	平成26年 2月25日																						
第6回	平成25年9月24日	第12回	平成26年 3月25日																						
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	全教職員対象 年8回																								
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○新入職者オリエンテーション (平成26年度4月採用予定者)</p> <p>・ 日程及び内容： 平成25年3月13日(木)、3月19日(水)、3月29日(土)</p> <p>場 所： 教室棟 125番教室、大学会議室No.2</p> <p>講 師： 岡本 友紀 氏 (臨床検査センター副主任、感染制御センター兼務)</p> <p>香取 三奈 氏 (看護部・感染管理認定看護師、感染制御センター兼務)</p> <p>受講数： 173名</p> <p>○研修医オリエンテーション</p> <p>・ 日程及び内容： 平成25年4月4日(金) 13:00~17:00 講義『病院感染の重要な病原微生物学』 演習『手指衛生・PPE装着脱・フィットテスト』</p> <p>平成25年4月8日(火) 9:00~12:00 手指衛生実習の効果と判定、グループ討議 講義『手の衛生について』 『抗菌薬について』『感染症診療』</p> <p>・ 場 所： 臨床研修センター大会議室</p> <p>・ 講 師： 感染制御センタースタッフ (医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師など)</p> <p>・ 受 講 数： 48名</p>																									

○新規採用者オリエンテーション

- ・日程及び内容： 対象者：医師（後期研修医含）、医療従事者、事務など
日 程：採用月に30分程度実施
場 所：病院3階中会議室No.2、他
内 容：講義「医療施設内での感染拡大を防ぐ」
講 師：岡本 友紀 氏（臨床検査センター副主任、感染制御センター兼務）
受 講 数：医師24名、医療従事者・事務など34名

○院内感染防止対策講習会（全教職員対象）

- ・第1回：『 標準予防策 』
日 時：平成25年4月9日(火) 17:30～18:30
場 所：関湊記念ホール
講 師：藤澤 隆一 先生（微生物学講座 学内准教授・看護学部出向）
受 講 数：929名
- ・第2回：『 風疹 』
日 時：平成25年5月14日(火) 17:00～17:50
場 所：関湊記念ホール
講 師：大山 茂 先生（栃木県保健福祉部 健康増進課 主査）
受 講 数：946名
- ・第3回：『 クロストリジウム・ディフィシル感染症（CDI） 』
日 時：平成25年6月4日(火) 17:00～18:00
場 所：関湊記念ホール
受 講 数：540名
講演①内 容：「診断と治療について」
講 師：吉田 敦先生（感染制御センター 准教授）
講演②内 容：「クロストリジウム・ディフィシルが出た！」
講 師：鷺谷 美栄子氏（看護部 主任）
講演③内 容：「感染対策について」
講 師：早川 千亜紀氏（看護部主任 感染制御実践看護師）
- ・第4回：『 ダニ類による疾患を巡って 』
日 時：平成25年7月18日(木) 17:00～18:00
場 所：関湊記念ホール
講 師：千種 雄一 先生（熱帯病寄生虫病室 学内教授）
受 講 数：499名
- ・第5回：『 予防接種の現状と課題 』
日 時：平成25年11月21日(木) 17:00～18:00
場 所：臨床医学棟10階講堂
講 師：福島 啓太郎先生（小児科学 講師）
受 講 数：209名
- ・第6回：『 インフルエンザ 』
日 時：平成25年12月4日(水) 17:30～18:30
場 所：関湊記念ホール
講 師：館脇 正充先生（呼吸器・アレルギー内科 学内助教）
受 講 数：237名
- ・第7回：『 結核 』
日 時：平成25年12月12日(木) 17:00～18:10
場 所：関湊記念ホール
講演①内 容：「結核の症例・診断」
講 師：梅津 貴史先生（呼吸器・アレルギー内科 学内助教）
講演②内 容：「職員の感染対策」
講 師：早川 千亜紀氏（看護部主任 感染制御実践看護師）
受 講 数：232名

・第8階：『ICT活動報告会』

日 時：平成26年3月26日(水) 17:00～17:30

場 所：臨床医学棟10階講堂

内 容：「外来看護師における手指消毒の現状と使用率向上の取り組み」

発表者：岡本 友紀氏(臨床検査センター 副主任)

受講数：57名

○ビデオ視聴会

視聴者数：1,860名

○部署別講習会

・委託業者対象講習会

日 時：平成25年12月4日(水)、12月6日(金)、12月9日(月)
10:30～17:00の間で、1回30分を数回にわけて開催

場 所：センター棟4階大会議室

講 師：早川千亜紀氏(感染制御実践看護師)、香取三奈氏(感染管理認定看護師)

受講数：326名

内 容：講義「インフルエンザとノロウイルス」、演習「手洗い・手指消毒」

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症起因菌検出時に臨床検査センターから主治医及び感染制御センターへその都度報告される。その感染症の届出を要するものについて速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。

また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容： ①静脈注射を安全に実施するために必要な注射剤の知識 ②化学療法を安全に実施するために ③医療用麻薬の適正使用について ④抗がん剤の被爆と抗がん剤調製室の共同利用時の留意点	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①高濃度カリウム製剤をシリンジタイプの製剤に変更した。 ②注射薬の1施用毎の供給を1病棟から開始した。 ③病棟で看護師が注射薬を混合する前に薬剤師による確認を一部の病棟から開始した。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 3 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療安全対策講習会（除細動器） 2 回臨床工学部による病棟単位の人工呼吸器勉強会（取扱説明等） 1 3 回臨床工学部による人工心肺装置及び補助循環装置勉強会（取扱説明等） 4 回臨床工学部による血液浄化装置勉強会（取扱説明等） 2 回製造販売業者による閉鎖式保育器研修会（取扱説明等） 2 回製造販売業者による診療用高エネルギー放射線発生装置勉強会（取扱説明等） 7 回製造販売業者による診療用放射線照射装置勉強会（取扱説明等） 3 回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (○有・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">保守点検記録表に基づく点検の実施保守点検記録表の保管・管理	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療機器の安全使用のために必要な不具合情報や安全性情報を、製造販売業者等から収集し、病院長及び医療機器安全管理責任者へ報告するとともに、関連部署へ周知徹底医療機器の添付文書・取扱説明書等の保管・管理	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	○有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 訪問審査受審(3rdG:Ver.1.0)：平成25年10月2日(水)～3日(木)の2日間 認定年月日：平成25年11月17日(認定日より5年間有効)	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	○有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 栃木県保健医療計画(6期計画)に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主な地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やH p、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	○有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院3診療科(心臓・血管内科、循環器・腎臓内科、心臓・血管外科)の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至	

るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、最近では前立腺センター、再生医療センター及び放射線治療センターを設置するなど、院内18センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者様により分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでおります。

(様式第 8)

獨医大病庶発第 57 号
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 寺野 章

獨協医科大学病院の紹介率及び逆紹介率の向上に関する年次計画について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日	
紹介率	57.8%	逆紹介率	34.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,717 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,187 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	4,143 人	
	D: 初診の患者の数	41,274 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、C の和を D で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、B を D で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
3 A、B、C、D は、それぞれの前年度の延数を記入すること。

2 紹介率及び逆紹介率向上のための基本方針と向上のための具体的な予定措置

【逆紹介率】

○基本方針

特定機能病院であるとともに、地域社会の医療センターであるとの自負を持って、地域の他医療機関との良好な関係を築くことで地域連携医療を確立する。

○具体的な予定措置

毎月開催の病院幹部会（常任委員会／診療部長会議／病院連絡会）や隔月開催の地域医療連携センター委員会において、逆紹介率（診療科毎）の近況報告をすることで逆紹介を促す。また、地域医療連携の推進、病病・病診連携の強化を図り、更には医師による医療機関の選定が容易になるよう地域の各医療機関の特性や機能の明確化に努める。

(注) 「紹介率」又は「逆紹介率」のうち、承認要件を満たしていないものについてのみ記載すること。

3 年次計画

(1) 紹介率

計画期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
年次目標紹介率	第1年度 (平成 年度)	・ %
	第2年度 (平成 年度)	・ %
	第3年度 (平成 年度)	・ %
	第4年度 (平成 年度)	・ %
	第5年度 (平成 年度)	・ %

(注)「紹介率」が、承認基準を満たしていない場合についてのみ記載すること。

(2) 逆紹介率

計画期間	平成26年4月1日 ~ 平成31年3月31日	
年次目標紹介率	第1年度 (平成26年度)	43.0%
	第2年度 (平成27年度)	51.0%
	第3年度 (平成28年度)	55.0%
	第4年度 (平成29年度)	55.0%
	第5年度 (平成30年度)	55.0%

(注)逆紹介率が、承認要件を満たしていない場合についてのみ記載すること。